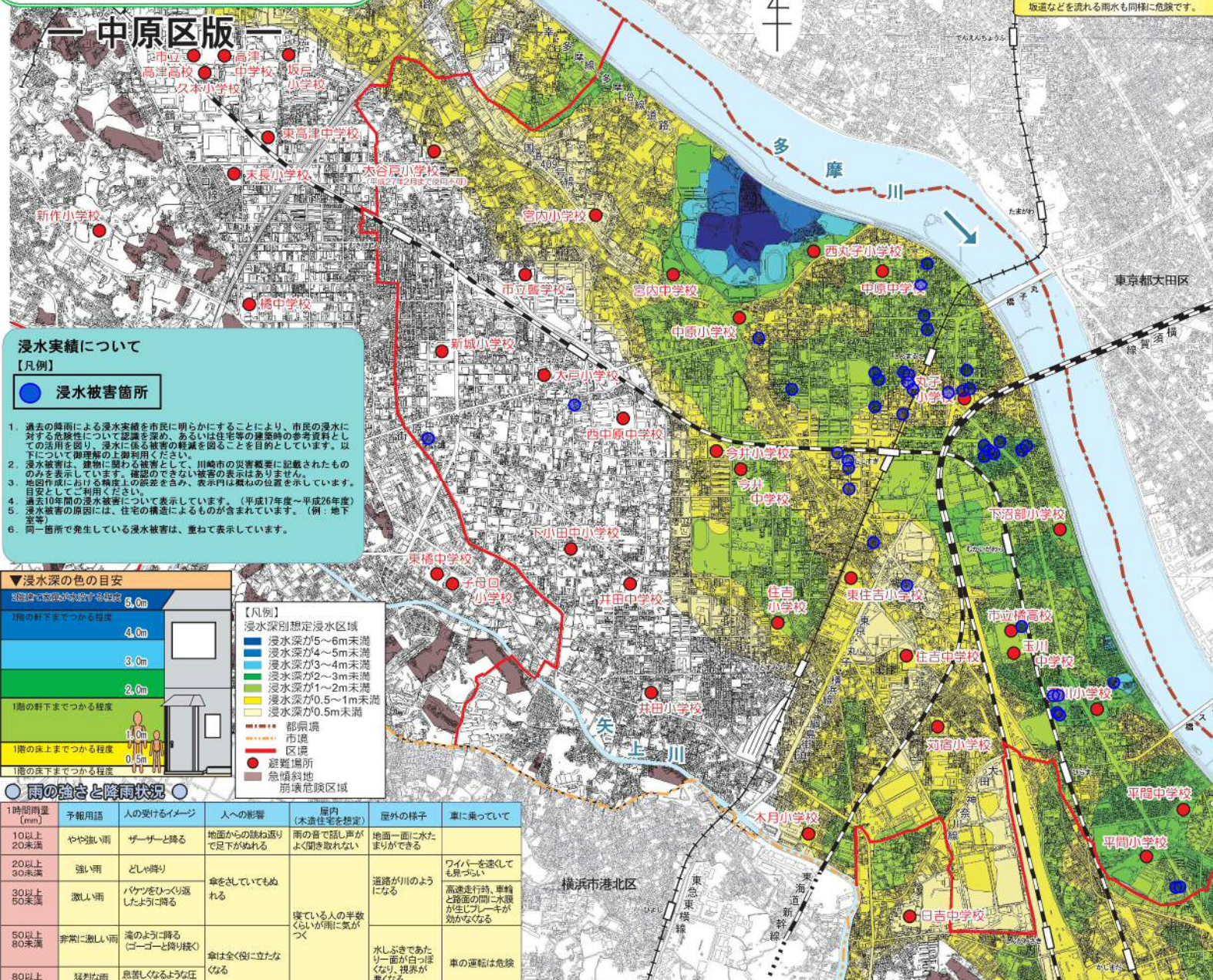


たまがわこうずいひなんちず 多摩川洪水避難地区 (多摩川洪水ハザードマップ)

多摩川の氾濫 + 浸水実績

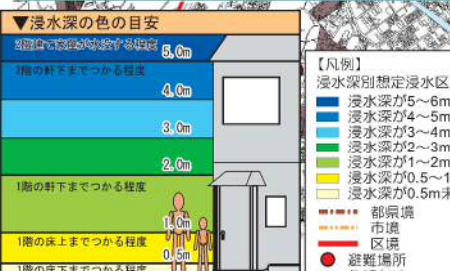
裏面もご覧下さい！！
鶴見川の情報・
災害時に役立つ情報が記載されています。



浸水実績について 【凡例】

● 浸水被害箇所

- 過去の降雨による浸水実績を市民に明らかにすることにより、市民の浸水に対する危険性について認識を深め、あるいは住宅等の建築時の参考資料としての活用を図り、浸水に係る被害の軽減を図ることを目的としています。以下についてご理解の上ご活用ください。
- 浸水被害は、建物に限定した被害として、川崎市災害概要に記載されたもののみを表示しています。確認できない被害の表示はありません。
- 地図作成における精度上の誤差を含み、表示門は概ねの位置を示しています。目安としてご利用ください。
- 過去10年間の浸水実績について表示しています。(平成17年度～平成26年度)
- 浸水被害の原因には、住宅の構造によるものが含まれています。(例：地下室等)
- 同一箇所が発生している浸水被害は、重ねて表示しています。



● 雨の強さと降雨状況 ●

1時間雨量 (mm)	平綴用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (未通住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っている
10以上 20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足下がぬれる	雨の音で話し声がよく聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上 30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる		道路が川のようになる	ワイパーを速くしても見づらい
30以上 50未満	激しい雨	バケンをひっくり返したように降る				高速走行時、車輪と路面の間で水膜が生じブレーキが効かなくなる
50以上 80未満	非常に激しい雨	滝のように降る (ゴロゴロと降り続く)		濡れている人の半散くいが雨に気がつく		水のしぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる
80以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる				車の運転は危険

多摩川洪水避難地区について

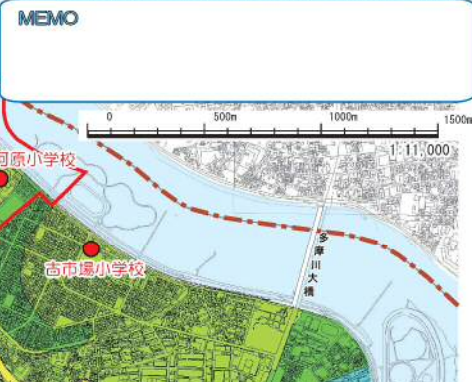
- この地図は、多摩川が大雨によって増水した場合に、浸水が想定される範囲とその程度の避難場所を示した地図です。堤防の決壊地点を概ね1km幅に想定して、各々の氾濫シミュレーション結果を重ね合わせ、最大となる浸水深を示しています。
- 大雨の規模は、多摩川の流域に2日間で総雨量45mmの雨(200年に1回程度降る可能性があります)を想定しています。これ以下の降雨でも大規模な洪水が起こる可能性があります。
- 浸水の予想される区域及びその程度は、雨の降り方や土地の変化、河川・下水道の整備状況などにより変化することがあります。また、高潮や下水道などによる影響を想定していませんので、表示と異なる浸水が起こる場合があります。
- 水害のおそれがある時は、市から避難勧告や避難指示が出されますので速やかに避難しましょう。
- 日ごろからあなたが住んでいる地区における浸水など、大雨による災害が発生するおそれのある場所や状況を把握し、雨の降り方や浸水の状況に注意して危険を感じたら早めに自主的な避難を心がけましょう。

避難時の心得

- 避難について**
 - 避難勧告や指示があった時には、ハザードマップに掲載されている避難場所に避難しましょう。
 - 避難が困難な場合には、無理をせず3階建て以上の建物や高台への避難も有効です。
- 浸水している区域に注意**
 - 浸水している区域を歩行する場合は、側溝やフタのはずれたマンホールなどもあり大変危険です。
 - 流れる水は、流れても足元をすくわれやすい危険です。
- 洪水時に地下施設は危険です**
 - 地下室では外の様子が判りません。—は使えません。
 - 浸水すると電気が消え、エレベーターは使えません。
 - 水圧でドアは開きません。
 - 地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます。
- 周囲より地盤が低い箇所**
 - 周辺の地盤より低い箇所は洪水時に浸水するおそれがあります。
 - 浸水した道路は避難をする時に危険な場合もあるので注意しましょう。
- お互いの協力が大切です**
 - お年寄りや子供、病気の方などは避難が困難な場合もあります。避難をする時は、お互いの協力が大切になります。
- その他**
 - 車で避難は控えましょう。
 - テレビ、ラジオなどで情報収集をすることが大切です。

災害弱者への協力

- 高齢者・病人**
複数の人に対応する。急を要するときは、ひもなどを使って背負い、安全な場所へ避難する。
- 肢体の不自由な人**
それぞれの人が適した誘導方法を確立する。車椅子の場合は階段では必ず3人で協力する。上がるときは前向きに、下がるときは後ろ向きにして、恐怖感を与えないように配慮する。
- 目の不自由な人**
「お手伝いしましょうか?」などと、まず声をかける。話しかける相手の声が頼りなので、必ず声をかけ、はっきり、ゆっくり、大きな声で、感嘆符などは、杖をもっていないほうのひじのあたりを軽く触れるか、腕を貸し半歩くらいをゆっくり歩く。
- 耳の不自由な人**
話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かす。口唇で分からないようであれば、紙とペンで筆談する。紙やペンがなければ、相手の手のひらに指先で字を書いて筆談する。



※地形図および急傾斜地崩壊危険区域は平成12年現在のデータを使用。